



仕事を知らう

10代の時は、将来どんな仕事につくか悩むことも多いでしょう。そこで、様々な仕事ができる小説などをいくつか紹介します。いろんな仕事の世界をのぞいてみませんか。



・書店ガール

碧野 圭

PHP研究所

Fーア

吉祥寺の書店で働く、副店長の理子とその部下の亜紀は、事あるごとに反発し合っています。でも、二人には書店で働くことに生きがいを見出しているという、共通点がありました。書店、出版社、作家の関係性がよくわかるお仕事小説で、その書店の危機を乗り越える様子が生き生きと描かれています。

・若旦那のひざまくら

坂井 希久子

双葉社

Fーサ

芹は東京の老舗デパートでバイヤーとして働いていました。しかし、京都西陣の由緒ある織物屋の息子で11歳年下の充と出会い、仕事を辞めて京都で暮らし始めます。関東で育った芹にとって充の家庭のしきたりが大きな壁になりますが、たくましく溶け込んでいきます。

・シュガー&スパイス

野中 柊

角川書店

Fーノ

晴香は近藤くんと一緒に、柳原さんのお店でパティシエの修行中です。知る人ぞ知るそのパティスリーでは、季節ごとにガトー・ショコラなど様々な新作のケーキが生み出されています。晴香のパティシエとしての成長と、周りの人々の人間模様も興味深いです。

・和菓子のアン

坂木 司

光文社

Fーサ

「ピンとくる何か」がなく、高校卒業後の進路を決められない杏子。就職かアルバイトかと検討していた杏子は、ある日デパートの地下にある和菓子屋で求人の張り紙を目にし、働き始めます。季節に応じた上生菓子に込められた思いや謎。和菓子をめぐる店員やお客様とのやりとりが楽しめます。

・ひよっこ社労士のヒナコ

水生 大海

文藝春秋

Fーミ

ヒナコは新米の社会保険労務士です。ブラック企業、残業、給与、産休・育休、裁量労働制、パワハラ…。クライアントからの相談をうけ、企業と従業員の板挟みになりながら、法律を後ろ盾に問題と立ち向かいます。お仕事ミステリーを楽しみながら、社会で働くからには知っておきたい労務知識も学べます。

・ほたるいしマジカルランド

寺地 はるな

ポプラ社

Fーテ

遊園地にはいろいろな仕事をする人々が働いています。インフォメーションで迷子や落とし物などの対応をする人。トイレなどあらゆる所を清掃する人。庭園などの植物を管理する人。きらきらしたメリーゴーラウンドを操作する人。すべての働く人の思いと共に、私たちは遊園地を楽しめるのです。

・空白の五マイル

角幡 唯介

集英社

292.2-カ

著者は、チベットのツアンポーという川の未踏の渓谷を、単独で探検しました。その記録であるこの本は、開高健ノンフィクション賞などを受賞しています。探検家の実態を感じられる1冊です。

・スクープのたまご

大崎 梢

文藝春秋

Fーオ

・森崎書店の日々

八木沢 里志

小学館

Fーヤ

・店長がバカすぎて

早見 和真

角川春樹事務所

Fーハ

・お役に立ちます！二級建築士さくらのハッピーリフォーム 未上 タニ

KADOKAWA

Fーミ

・本のエンドロール

安藤 祐介

講談社

Fーア

・泣くな研修医

中山 祐次郎

幻冬舎

Fーナ